様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月　７ 日現在

機関番号：１４２０１
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2016～2022
課題番号：１６Ｋ１７２３０

研究課題名（和文）持続可能な地域づくりに寄与するアートプロジェクトの展開可能性に関する研究

研究課題名（英文）Study on the possibility to develop art projects that can contribute to sustainable local communities

研究代表者
宮本　結佳（MIYAMOTO, YUKA）

滋賀大学・教育学系・准教授

研究者番号：００６１０２３９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、近年日本の周縁地域における景観創造を通じた地域づくりの方策として注目を集めるアートプロジェクトの展開に焦点を当てた。本研究では、多様なアクター間の連携を通じて、地域社会の変容を巧みに取り込みつつ、持続可能な形で地域づくりに寄与するアートプロジェクトの展開可能性について社会学的に考察を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義
過疎化や産業構造の変動など大きな変化に直面する現在の日本の周縁地域において、地域に存在する多様な資源を活用した「地域づくり」の重要性が高まっている。その中で、現代アートを媒介として自然環境・歴史的環境を保全し、それらを資源として活用する地域づくりが各地で活発化している。本研究では、近年地域づくりの方策として注目を集めるアートプロジェクトに焦点を当て、その展開可能性について社会学的に考察を行った。

研究成果の概要（英文）：In this study, We focused on the development of art projects that have been gaining attention in recent years as a method to help develop outskirt areas in Japan through the creation of landscapes. In this study, We discuss the possibility to develop art projects that can contribute to the creation of sustainable local communities through collaborations between diverse actors and with consideration to the changes in regional cultures.

研究分野：社会学

キーワード：直島　現代アート　アートプロジェクト　地域づくり　景観

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

近年、過疎化や産業構造の変動など大きな変化に直面する現在の日本の周縁地域において、地域に存在する多様な資源を活用した「地域づくり」の重要性が高まっている。その中で、現代アートを媒介として自然環境・歴史的環境を保全し、それらを資源として活用する地域づくりが各地で活発化している。

このような動きがみられる中、地域づくりの資源としての環境に関しては次のような点が指摘されてきた。それは、住民の地域環境や地域資源の認識過程に目を向ける必要性である（帯谷博明，2004,『ダム建設をめぐる環境運動と地域再生―対立と協働のダイナミズム』昭和堂）。

そこで、筆者は現代アートを媒介として自然環境・歴史的環境を保全し、それらを資源として活用する地域づくりを事例に、この問いを検討してきた。筆者は、香川県直島におけるアートプロジェクトの展開過程の分析を通じて、住民が保全する根拠をどこに求めているのか、住民が来訪者との相互作用の中で資源に対する認識過程をどのように転換していくのか、そしてアクター間の関わりの結果、相互作用の中でどのような資源が生成されるのかを分析してきた。その結果、アートプロジェクトの展開過程の中で住民が保全の根拠としたのは、幅広い歴史の可視化に伴う個人の思い出の掘り起こし、そしてその思い出を語り合うことを通じて形成される集合的記憶であった点、住民が相互作用を通じて来訪者のまなざしを知り、観光における有力な資源を自らがコントロールしえるという状況を認識してはじめて住民の側の主体的な対応が生起するという点、観光という場における相互作用を通じて,住民は新たな資源を生成しているという点が明らかになった（宮本結佳、2008、「集合的記憶の形成を通じた住民による文化景観創造活動の展開―香川県直島を事例として―」、『環境社会学研究』、第 14 号、pp202-218, 宮本結佳、2012a、「住民の認識転換を通じた地域表象の創出過程－香川県直島におけるアートプロジェクトを事例にして－」、『社会学評論』、第 63 巻 3 号、pp391－407）

一方、アートプロジェクトが長期化していく中で、持続可能な形で取り組みを展開するするために必要な条件が問われるようになっている。

２．研究の目的

アートプロジェクトの長期化に伴い、各地で地域の動態的変化にいかに対応するのかといった新たな課題が生じている。多様なアクター間の相互作用の詳細な分析を通じて、持続可能な形でアートプロジェクトを展開するために必要な条件を明らかにすることが求められていると言えるだろう。

本研究では、多主体間の連携を通じて課題を克服し、地域社会の変容を巧みに取り込みつつ、持続可能な形で地域づくりに寄与するアートプロジェクトの展開可能性について社会学的に考察することを目指す。

３．研究の方法

筆者はこれまでも、日本国内の先駆例である複数のアートプロジェクトの実証的調査を実施し、人的つながり等を介した研究協力体制を構築してきた。本研究では瀬戸内海島嶼部等を中心にフィールドワークを実施する。地域住民および住民組織、プロジェクトに深く関わる企業、行政等を対象にインタビュー調査および文書資料収集を行い、各地域のプロジェクト展開過程におけるアクター間の相互作用の分析を通じて、持続可能な形で地域づくりに寄与するアートプロジェクトの展開可能性を検討する。

４．研究成果

香川県直島において実施した調査の成果を元に 2018 年には関西社会学会第 69 回大会シンポジウム「アートと社会／地域の現在――瀬戸内から考える」において「地域がアートに出会う時―直島における展開過程の検討―」と題した報告を実施した（2018 年 6 月 3 日,於松山大学）。報告の中で、直島においては住民たちの暮らしと深く関わる場所が作品となっており、アート作品と島の人びとの関わりのあり方が年月を経ていかに変化していったのかについて考察した。

また、2019 年には令和元年度文化で滋賀を元気に！シンポジウム「アートは地域に何ができるか＜滋賀編＞」において「アートと地域の出会い―瀬戸内海の島々の事例」と題した報告を実施した（2019 年 11 月 30 日,於コラボしが 21）。本シンポジウムは広く一般に開かれており、本研究の成果を広く社会に還元する機会となった。

2020 年には、木村至聖・森久聡編（2020）『社会学で読み解く文化遺産　新しい研究の視点とフィールド』において「場所と環境　人々はどのように場所と関わるのか」を執筆した。その中で、場所の保存のあり方が多様化する現在において、社会の中で「場所を保存する」という能動的な営みがどのように展開されていくのか、そこで様々な主体のまなざしがどのように交錯するのか、一つひとつの取り組みを丁寧に分析することが求められていることを指摘した。

2021 年には、観光学術学会第 10 回大会テーマセッション「地域アートプロジェクトをめぐる経験―「アート的なるもの」と「観光的なるもの」の連関の探究にむけて」において「アートプ

ロジェクトは地域でいかに展開していくのか―香川県直島を事例として」と題した報告を行った（2021 年 7 月 4 日オンライン開催）。報告においては、住民・アーティスト・観光客といった各アクターが動態性、重層性を持ちつつあることを指摘した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 宮本結佳	４．巻 ２３
２．論文標題 書評論文 場所の保存をめぐる議論の行方 ： 森久聡著『〈鞆の浦〉の歴史保存とまちづくり』を読む	５．発行年 2017年
３．雑誌名 環境社会学研究	６．最初と最後の頁 146-159
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 宮本結佳	４．巻 214
２．論文標題 現代アートと地域の出会い―新たな資源創出の過程	５．発行年 2017年
３．雑誌名 αシノドス	６．最初と最後の頁 34-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計3件（うち招待講演　1件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 宮本結佳
２．発表標題 アートプロジェクトは地域でいかに展開していくのか―香川県直島を事例として
３．学会等名 観光学術学会第10回大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 宮本結佳
２．発表標題 アートと地域の出会い-瀬戸内海の島々の事例
３．学会等名 令和元年度文化で滋賀を元気に！シンポジウム「アートは地域に何ができるか＜滋賀編＞」
４．発表年 2019年

１．発表者名 宮本結佳
２．発表標題 地域がアートに出会う時―直島における展開過程の検討―
３．学会等名 関西社会学会第69回大会シンポジウム（招待講演）
４．発表年 2018年

〔図書〕　計1件

１．著者名 木村 至聖、森久 聡	４．発行年 2020年
２．出版社 新曜社	５．総ページ数 216
３．書名 社会学で読み解く文化遺産	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関